

# 被爆体験継承 重要性を訴え

軍縮研究家  
中区で講演

米国を拠点に活動する  
軍縮研究家キャサリン・  
サリバンさん(40)が三月  
三十日夕、広島市中区の  
広島商工会議所で講演  
し、被爆体験を広めてい

く重要性を訴えた。

「希望の兆しー核軍縮への可能性」と題して話したサリバンさんは、小さな玉を核弾頭になぞらえて金だらいに落とし、その音で各国が保有する核兵器の破壊力を実演。「軍縮をしなれば核兵器が使われるかもしれない、その結果ど

うなるか、想像力を働かせる必要がある」と語った。

また、しばしば来日し被爆地を訪れている経験から「被爆者の話は単なる証言ではなく、軍縮を要請する動機付けとなっている」とし、「被爆者の経験を記録し、証言し、次世代に残すことが急務」と述べた。



務」と述べた。

講演は国連訓練調査研究所(ユニター)アジア太平洋地域広島事務所が主催し、約四十人が聞き入った。

「被爆者の話を理解することが核軍縮につながる」と話すサリバンさん